

とあるリオルの冒険

ミルクティー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

リオルのソラルは、ある日旅に出ることになった。

そこに待ち受ける数々の出来事をソラルは乗り越えられるのか!!

目次

0章 プロローグ

0話 プロローグ

1

0章 プロローグ

0話 プロローグ

とある村のとある場所で：

リオル「ねえ父さん、母さん!!これオレの物になるの?!」

一匹のリオルがルカリオ二匹の前で嬉しそうに訪ねていた。

父さん「ああ。七歳になったらお前の物だ。」

母さん「そうよソラル。あなたが受け継いでいくのよ」

ソラル「うん!来年で七歳かあ!!楽しみだなあ!!」

しかし、そんな幸せな時間はそう長くは続かなかった：

ソラルが後一週間で七歳の誕生日を向かえるというある日：

ソラルにとても大きな事件が襲いかかってきた。

ソラル「父さん?!母さん?!い：いやだ!!オレを置いて逝かないで!!」

父さん「：ソラル：いままで、お前に：秘密にしていたことがあるんだ：」

ソラル「え?：父さん：?：何?」

父さん「お前の：オレ達の：名字のことだ：」

ソラル「み…名字…？」

母さん「そうよ…あなたの…私達の…名字のこと…」

父さん「お前は、リオルやルカリオの種族で一番有名な…メストリーム家を…知っているか…？」

ソラル「うん。家宝を守っている種族の代表のことでしょう？…それが何か関係があるの？」

母さん「あなたに見せた…あの宝石…あれが…リオルとルカリオの種族の家宝…ルカリオナイト…」

父さん「お前は…メストリーム家の最後の生き残り…ルカリオナイトの後継者…」

ソラル「え…!!」

母さん「…私達は…もう長くないわ…」

ソラル「…な…何言ってるの？」

父さん「七歳になったらにしようと思っていたが…仕方がない…」

母さん「…そうね…」

父さん「…ソラル…こっちにおいで…」

ソラル「うん」

二匹「ソラル メストリーム。あなたを次世代のルカリオナイトの後継者に任命しま

す。」

ソラル「…」

父さん「…ソラル…メストリームという名字は…必要な時にしか…名乗るなよ…」

母さん「ルカリオナイトは…地下の…宝箱の中に入れてある…そうね…それを身から離さず持つていなさい…」

ソラル「うん」

母さん「…ソラル…強く…生きるのよ…誰にも負けないような…リオルに…」ガクツ

ソラル「…母さん？…か…母さん!!」

父さん「ソラル…お前なら…大丈夫だ…みんなを引っ張って…いけよ…」ガクツ

ソラル「父さん…」

ソラル「…何で…何で…!こんなことに…!」

そこには、両親を亡くしたソラルの泣き叫ぶ声が響き渡っていた…

ソラル「…許さない…父さんと母さんを…こんなことに…した奴を…絶対に…絶対に…許さない…!」

その日、ソラルはルカリオナイトを身に付け、両親のことを思いながら、強く強く心に思い復讐することを決めたのでした。